

武神館伝書



第九号

山脈

平成七年九月九日発行

# 山 やまびこ 彦

<その1>

私は時折間違った武風観を持ったらあかんといい、高松先生から十五年間にいただいたお手紙や伝書、絵言葉を聞いて、洗心しております。昨晚、三十三年前のお正月に高松先生からいただいた「結びつどいの会々報」を開いて夢稽古をいたしました。私は高松先生からいただいた教えはお経であり、バイブルと思って読み返し、写経をする心で先生からいただいた極意を書き写しております。勿論、心に書き込んでいるということです。

「お互いが生存中に極楽行の前売券を買入れましょう」

高松 寿嗣

私が斯く申しますと、何という死んだ人から地獄や極楽じゃと便りのあったためしが無いのに霊界などの有無を考えるのは無駄だ、人間死ねば一切空とするが一番気楽だ、生の有る内にしたいほうだい太平楽の腹つぶみを打って暮らすのが極楽也という人が十中八九まででしょう。しかしその考え方は丁度コウモリが木の枝に止まって己の軀がさかさまになっていることも知らずに、人間という者は不思議な動物じゃ逆しまになって歩いていると思うのと同じで、人間が霊界を見ることが出来ぬから誰もが不審に思い想像に苦しむから一切空でかたづけてしまうのです。明るい座敷から暗い押入れの中は一寸見えぬ様なものですが、逆に押入れの中から明るい座敷はよく見えるのと同じで、霊界から人間界はよく見えるものです。お互いは霊界などのことは思いたくもない、一日でも生き長らえようとするのが人間の本心であります。しかし人間いかに努力してみても、不老不死ということは至難であります。この肉体は永久の存在ではない。或る期間過ぎれば使用に耐えなくなる、その時こそ死ねばならぬのであります。しかしその死後における世界の模様さえわかっておれば別に恐れることなく静かにしかも故郷に帰るような気持ちで死につくことが出来るのであります。この死後の世界のことがわからぬ者にはその死が恐ろしく、また耐えられぬ寂しさを感じ、果ては迷信に陥りあたたら人生を台無しにするのであります。

仏者の説かれた經典をひもときますと、この世を地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上、声聞、縁覚、菩薩、如来の十段に区別してこれを十界(\*)というております。その中で人間はほぼ中間に位しておりまして、人間以下の世界もあれば人間以上の世界もあります。そうしてこの十界の世界を大別して地獄と極楽の両界にしております。仏説のみならず神道にも明るい清浄な世界を高天原といい暗い世界を黄泉国というております。

さて近代心霊科学のもたらした霊界通信を総合いたしますと、伝説は必ずしも架空の説ではなく、神道の説く黄泉国もまた事実として認めねばならぬことを教えているのであります。英国のワード学士の著した「死後の世界」と「幽界行脚」に現れております。両書とも故浅野和三郎氏が邦訳しております。浅野和三郎氏は私が生仏といわれし当時丹波の大本教で面談したことがあります。極楽行きの切符も地獄行きの切符も前売券はお互いの心に手に握られております。それは只だ一枚の切符でしかないが、使いようによって極楽にも行けるし、地獄にも行ける、その行先は自分の想念で決められるものです。一例をあげてみれば、現代社会で人間が毎日歩行するにも人道は右側、車道は真中、四ツ辻には一度止まって歩道信号赤は止まれ青は進め、信号の無い道路でも横道がある所は止まって左右を見て通行せよと定められてある。それはお互いに自分の自体を守るためでしょう。わかり過ぎる程わかっておりながら、何かの拍子で左右を見ずに通行しようとしたり、一寸止まればよいのに止まらずに通行したりするために毎日行通（こうつう）事故の出るのと、人間生活のために左に曲がってならぬと定められた方向へうかうか曲がったり知らず知らず曲がったり、知りつつ欲望のために曲がったりするのは誰も知らないと思うくらいだから死後の霊界など何とも思わず、また霊界で知る由もないと思うだろう。丁度八幡の藪に入ったら何もわからないといったように思うでしょうが、上から見ればよくわかります。霊界から見ると何もかも判明しますと申しますと、そもそも霊という様なものが有るのかと思われる人もありましょう。私は霊の実験談を申し上げます。丁度今から四十二年前私が郡山の天台宗末寺の住職として佛門にいた時です。或る事情の元に私が祖母を養老することとなってこの寺に住まわしました時、祖母は老病となって六十日間食物を喰わず葡萄酒ばかり飲んで死去されましたが、老母は奥の間で床の中で寝たきりで動くことも出来ません祖母でしたが、或る日寺の裏手の山の中で私は養鶏を楽しみにしていましたので、その時私は鶏の餌入れを作ろうと板で箱を作り手を付けて餌入れを作り麦を入れて鶏に与え一寸はなれた所で大根葉を刻んでおりますと鶏がクワクワと驚きの声に私がフト見ますと、一匹の蛇が餌入れに首を突込んでいます。鶏の驚くのは当然です。私は直ぐその蛇を竹で追いました。蛇は驚きもせず一寸振り向いてゾロゾロ退きました後に家に入り奥の間の祖母の枕辺に行きますと祖母が私に「お前あんな箱に手を付けて何にするつもりか」と尋ねます。聞いて私は驚きました。祖母は私が何をしていたか見ることも出来ない奥の間で床の内だ。私は不思議に思うて「おばあさんは見ないのになぜ知っているのか」と尋ねますと、祖母は「先程私が箱を覗いた時お前はあちらに行けというたでないか」と言いました。私はその時驚きとすぐ知ることが出来たので、「そうでしたか」というてさからいませんでした。私はその時後で妻に靈感の働きの偉大さを話しました。祖母の潜在意識はあの鶏小屋にいて幸い蛇がいたのでその肉体を借りて箱を覗いたのであることを私は悟りました。人間の精神中の潜在意識が思い詰めるということは偉大なもので、祈りの神を通じてあるいは佛を通じて時には悪魔を通じてまたは自然現象を通じて自己の希望の思いが到達し得ることが現実に知ることが出来ました。しかしよく刑事の人等が六感の働きでといわれますが、この六感の働きと一寸違うのです。第六感というものは、例えば刑事が駅の待合室にいたとする。その前を一人の男が手荷物をさげて通る。思わずその顔を見て、その刑事がハテどこかで見たことがある、思い出せない、その時色々考える。これは顕在意識の働きである。之よりその時蔭で潜在意識が、ソレこの人間があ

事件の犯人じゃと頭在意識に通ずる。そこで頭在意識が十数年前彼を犯人として調べたことがあることを思い出し、その人間に職務質問するとその人間は逃げ出す故に捕えるとこの度の重大犯人であったという様なことを聞く。これは六感推理術というのです。前に申しました潜在意識だけの働きを心念波及術というのです。また思念感応術ともいうています。アメリカのライン博士はPKと称しています。神とか仏とかが存在すると信ずる人にも必ず存在もする。祈願目的も達成出来ます。神や仏を信じない人でも己の精神は認めるでしょう。然らば神仏の有無はさておき、所詮は人間の精神が目的思い詰めることにおいて価値付けられる人間以上の偉大なる力が加えられると信ずることによって念力の達成となるのです。ここに宗教家の念力も催眠術者の念力も肝心なことは被術者に他のことを思い詰めさせては術者の念力に効果がない時があります。例えば、子供が腕を痛めて私の所へ診察に親が連れて来る。この子供は自分の右腕が痛いものと思い詰めておる。それを私がその痛む右腕にすぐ手をかけることは子供の思念をよけい痛いと感じせしめる。先ず親から凡そのことを聞き、子供には思念を転化せしむるために頭をなでて菓子でも与え、後右手をぼつぼつ診察して痛まないと思念を通達せしめ、痛いかという不用意な言葉は禁物です。反対になにもない、痛いところはないやないかという風に治癒する。治癒後も当分絶対親に腕が痛いかという不用意な尋ね言葉は禁物です。催眠術でも被術者が頭の中で他のことを思い詰め術者の顔を見ず術者の暗示など耳にしません時は絶対かかりません。しかし術者の念力が非常にすぐれている時は体がゆれたり、頭が変に重くなることはあります。また宗教家が靈感思念を祈った場合、被術者が他のことを思い詰めたり、術者を信じないでも術者の念力が優れていた時は或る程度までは達成出来ますが、被術者が信じてくれることとはその感応に非常な差があります。この霊感的のことは迷信だと思う人はアメリカのデューク大学心理学研究所所長ライン博士の実験記録を一読せらるるとうなづけるとおもいます。念力の存在遠く離れている人の心と心との感応（虫が知らず）という現象など厳密な科学的手段による管理のもとに着々と幾多の実験に成功しその力の存在を実証した人であります。

私が三年程前に、愛知県河和局区内布土山麓の重野桃仙という人が誰から聞かれたか、書面を以って私に霊感的御法の伝授を依頼されましたので、承知しまして何日の夜二時頃東を向いて合掌して下さい、無我の情で一時間正座せらるる様申し送りまして、その夜私が二時頃合掌眼を閉じて信念を一貫しますと、ありありと重野氏の姿を見ることが出来ました。私は重野氏の右の肩を三度軽くたたきました。翌日手紙にて重野氏に貴方の胸の中心にほくろのあることや見た姿を書いて右肩を三度軽くたたいたことを通信致しました。重野氏からその通りです、胸にもほくろがあること、右肩をたたかれた感じも致しましたと驚いて返書が来ました。現在も重野氏は同じ住所におられますから私の申しましたことに一言のいつわりもないことはすぐお尋ねになれば知れます。斯くの如く。

斯くの如く実証的実験をしてきましたこと故、靈感の働きの偉大さと共にその精霊の正しいことにおいて極楽行きの前売券も自由だということもおわかりとおもいます。これが自然原則です。天理ということは時を待つということで、忍耐心とも解せられましょう。時を待たずに活動せんとするから迷いが出る一般の青少年は血気に富み進むに急なるがため陥り易い、

老人は時を見ることは出来るが、活動力が伴わないため遅れ易い、自然とか天理とか色々な解せられますが、ともかく人間生存中は健康を保ち正しい心であせらず遅れず活動することが自然極楽の券ともなり、結びつどうということにもなるのですから、健康のため麦にゴマ、ソバ粉、菜食をおすすめ致します。白米「粕」カスをなるべくひかえ目に食しましょう。

<「結びつどの会々報」 昭和37年（1962年）1月発行より>

(\*) 十界について

悟りと迷いの世界を十種にわけたもの。

悟りの世界 - 仏界、菩薩(ボサツ)界、縁覚(エンガク)界、声聞(ショモン)界

迷いの世界 - 人間界、阿修羅(アシュラ)界、畜生(チクショウ)界、餓鬼(ガキ)界、  
地獄界、天上界十法界

こんな所から段位が十段位に分類されたのでしょ。

私も先生の会報に次のようなことを書いたものです。

「温故知新」

この諺は孔子の言であります、常に先生よりふるきを尋ねてその正しさを知り新しきを悟るようと教えを得ますが、古い事柄から伝統の正しさを八方に尋ね調べてよく味わい吟味してそれから新しい道と技とを発見して武道の真髄を研究し武道家の精神、花性竹性を以って平和のため社会の一端ともなればと日夜身体共に磨いておるのであります。

初見良昭





# 山 やまびこ 彦

<その2>

## 1. 三つの波 (野田ジャーナル、1995-07-01)

人生には波がある。よい波は一生に誰れもが三回やってくるという。かくいう私の人生の三つの波は、虫の時代、漂白の時代、山の上から下界をのぞき見る時代の三つにわけられる。虫の時代、これは四十二歳まで続いたようだ。武道の師匠や、立派に人生を貫かれた人との出会いの時代でもある。何故私が虫の時代かというそれは、武道の師高松先生の一言である。「初見はん、虫けらやかて馬の尻尾に掴まっていれば千里いけるのやで……」。虫が知らせる潜在意識の修業時代だった。漂白の時代は、師の死が師弟の糸を切ったと思った日からの出発である。

漂白時代。山のような人間という生物の潜在意識の奥に潜む欲望と感情の乱脈を見たからといてもよい。武道の極意の巻物を求める姿を善なる人の姿と見つめていた私の心に、悪人が巻物を持つ姿を見た時代といてもよい。それは怪力乱心、魑魅魍魎と化した人の映像をそこに見続ける断腸の思いの日々であり、渴ききった太陽の砂漠を歩く自分の姿でもあった。シャンソンのサウンドではないが、三つめの波がやってきた。それが現在のように思う。漂白し歩き続けてオゾン層の小高い山に登り瓢箪を片手に一寸一杯、酔眼で下界を見ながら、武道の極意の唄、

「としなれば  
腰もまがりて  
眼もうとく  
耳は聴こえず  
物思いもなし」

と呟きながらも、音が聞こえてくるのだ。音符を拾わずにはいられない性、それが私の人生なのだろう。ペンを探し始めたのです。

## 2. 芸能界 (野田ジャーナル、1995-07-08)

昭和三十九年、日本テレビの夏休み子供番組「すてきなママ」にレギュラー出演することになった。当時、テレビ出演者は局の自動車で送迎されるという良き時代であった。現在ですか？ テレビの映像を創るのも局というより下請けの会社が多いし、足も自前かタクシー会社の方へと変わっている。ブームの波は丁重ならず、低重である。「すてきなママ」の台本を久し振りにめくって見る。私の出演する稿には活字が少ない。もっともライターに、「忍術のことは私なりのアドリブで……」で遠っていたからである。

当時の出演者は豪華でしたね。松山善三さん、高峰秀子さん、ダークダックス、天地総子さん、北あけみさん、近江俊郎さん、中村汀女さん、小森和子さん、水野晴夫さん。

当時の子供番組で欠かせなかった阿部進さん.....。

そうそう、今でこそキンキンの名で通る愛川欽也さんも当時はロバのぬいぐるみに入って頑張っていたのです。数年前、テレビ番組「世界忍者戦ジライヤ」という番組で私はジライヤのお父さん役。白い髭をつけてスタジオへの通り路、愛川欽也さんとバッタリ、「あれっ、先生仙人になっちゃったの!」「そうじゃないよ。三人の子持ちのやもめの親父役、山地哲山の撮影というわけ。」月日がたつのは早いものだねと笑う。芸能界という所は体力・気力ともに強くないともちません。寄居の採掘場の炎天と寒風の中での撮影、睡眠三、四時間の一年があつという間に過ぎ、しかし、子供のいない私には楽しい毎日の撮影でした。

### 3. お釈迦様 (野田ジャーナル、1995-07-15)

食前、合掌した両手に箸をかけて祈る人がいる。原稿を前にした私はペンをかけて祈ることがある。今日は祈ってからペンを走らせることにする。古谷光隆大和尚(百歳)と農民文学賞、中央公論新人賞をおとりになった宗谷真爾先生との対談の様子を紹介するからである。

宗谷 「どう頑張っても、我々は百歳まで生きられません。佛の道を極めた和尚様はどのように生きられたのですか？」

和尚 「普通の人と同じく生きてきました。まあ病気のしい病気をしたことはございません」

宗谷 「死ぬということは恐ろしいことでしょうか」

和尚 「人は年をとれば死ぬものだとして楽観しております」

初見 「武士道は死ぬことと見つけたりの境地もここにあるのですね」

宗谷 「悟りとはどんなもののでしょうか？」

和尚 「悟りですか。何でも無い、お釈迦様と同じことで、お釈迦様のいった通りで変わったことはありません」

初見 「私も悟りとは高松先生と同じだと思って修業して参りましたが、和尚様の一言で自信がつかしました」

和尚 「すべて私です。他の人とは関係はないのです」

初見 「天上天下唯我独尊ということですか」

和尚 「むずかしいことをいう“くせ”の人は、むずかしいことをいいますが、それはそれです」

宗谷 「人間は生まれかわりますか？」

和尚 「生まれかわる。生まれかわるにきまっています」

宗谷先生は江戸川に映る燈籠の流れ行く詩情をこよなく愛したという。今年のお盆は熊野川で燈籠を流そう。そして流れ行く燈籠のあかりが星の輝に見えるまで見送ってみよう。私の心に輝く星は毎年一つ二つとふえている。

#### 4. 教育 (野田ジャーナル、1995-07-22)

ミュンヘンに住むヨーロッパの教育長、アルノルド・エンツト先生にお会いする。先生はドイツとイタリアの教育について、その研究家として著名な方である。いわく、イタリアは知識的方向にポイントがおかれ、ドイツは実験的というか、実用的な方向にポイントがおかれている。また、ラテン系、アングロサクソン系の教育感覚は、生徒の成績があがらない場合、これは先生の指導力がないと評価されるのだそうだ。ラテン・ゲルマン系はそれと反対で、先生の指導力うんぬんより、生徒が努力しないか質が悪いのだと評価されるのだそうだ。知識的教育オーバーはマザコンを生むともいわれる。そんな所から教育ママなんて言葉が生まれたのであろう。

私が外国で指導する時、受講者は色々な国から参加してくるので、多種多様な姿勢で見つめ聞き入る。正座するもの、あぐらをかくもの、足を投げ出すもの、横になるもの。こんな所にもノーボーダーライン・セミナーの特徴が見られる。しかし、彼等は一様に熱心に私のランゲージや語りを学ぼうとする。神聖な心の姿を見せてくれているのである。これが日本だけにどっぷりとつかっていると見えないうだ。形式主義や数字主義に汚染されてしまっている。眼や耳になっているということに気づかないのですね。私が仲人をしたニュージーランドのカップル!! ご主人はニュージーランド人、奥さんは日本人。その珠代さんがニュージーランドの大学院に今度入学するのだという。月謝は日本の大学の十分の一位だと楽しそうに微笑み語っている。

#### 5. 鉄人の方程式 (野田ジャーナル、1995-07-29)

アメリカから、三年半ぶりに日本へ帰国したという青年学生がアメリカの友人を連れて我が家に尋ねてくる。スピーキング。「僕はアメリカの友人から、日本を知り文化や歴史の論文を書きたい。ティーチ・ミーとせがまれることがあるのですが、一寸困ることがあります。」「そうだね、そういうことは、僕はね、国際的な知識というより、感覚的に答えた方がよいと思うんだな。例えば、アメリカで食べた中華料理の味と、日本で食べた中華料理の味は違うでしょう。こうなってくるとね、中華料理を知識だけで説明することは知的活字の説明ということになっちゃうんだな。味は味覚感覚の一つだよ。だから感覚的に説明した方が話が早い、といことはトランスレーター上手にもつながるわけだ。これをね、健康という概念から説明すれば、健康は腹八分にならって、日本について七、八分自分の日本観で話し、それに彼等が納得する味をつける。鉄人の話術で話すといいんじゃないかな。」「そうなければいいですね。」「反対に外国を知ろうと思ったら同じ方程式でいくことだね。」「やさしそうでむづかしいですね。」「その通り、僕みたいに六十歳を過ぎて年を感じない行動をして六十四歳になり、これは耄碌の逆の逆耄碌という現象と反省し、年なりの行動をしようと考え始めているのも同世代の外国人を見ると自覚するんだね。老人てのは失敗しても反省力の方が強いから長生きしてきてるんだから、そう思わんと若い人とは語れませんか

らな。」こんなことを言うと女房は「反省力が強いということは悪いことも沢山やったということですよ」というであろう。

## 6. 絵 (野田ジャーナル、1995-08-05)

兵法者、武道家には、絵をよくするものがある。宮本武蔵、大石良雄、幕末の剣豪男谷精一郎などが名画を残している。私の武道の師、高松先生も武道の極意や人間の生き方を絵に託されて伝授して下さったものである。或る日、先生の教えを会得するためには絵心を持たねばならぬと思い、私の描いた墨絵を高松先生に見ていただいた。すると、武道では誉めていただいたことが一度もないのに、絵で誉めていただき、その嬉しさから絵を描き続けるようになった。私は最近、自画についてこう思うようになった。「私の絵は、絵というより私が修業した過程の語りなんだ」と。私は小さい頃から漫画を好んで描いたものである。漫画というものは禅画と共通する感がある。「写楽考」「芳年」「影の美学」をお書きになった宗谷真爾先生が、私が銀座の永井画廊で個展を開いた折、次のように評して下さい。「初見君の絵を大ざっぱに分けると、三つの系統があると思う。(1) 画歴からして原点をなすと思われる鳥羽絵ふうの淡彩のもので、勝絵や仏画に現れている、(2) 一步進めて、細密に描きたいわゆる佛画調のもので摩利支天がすぐれていた、(3) ダルマなど墨で描いた禅画ふうのもの、これは大ざっぱな分類だから、中間的というか実験的なものもあって、今後の発展に期待したい。」

私は旅の徒然に絵を描いてプレゼントしてきた。マラガのピカソ館では、館長さんにカボチャの絵。バルセローナでは、ダリの恋人で今では画商をやっているという美しい方に、墨で描いた即興のダリの似顔絵を。

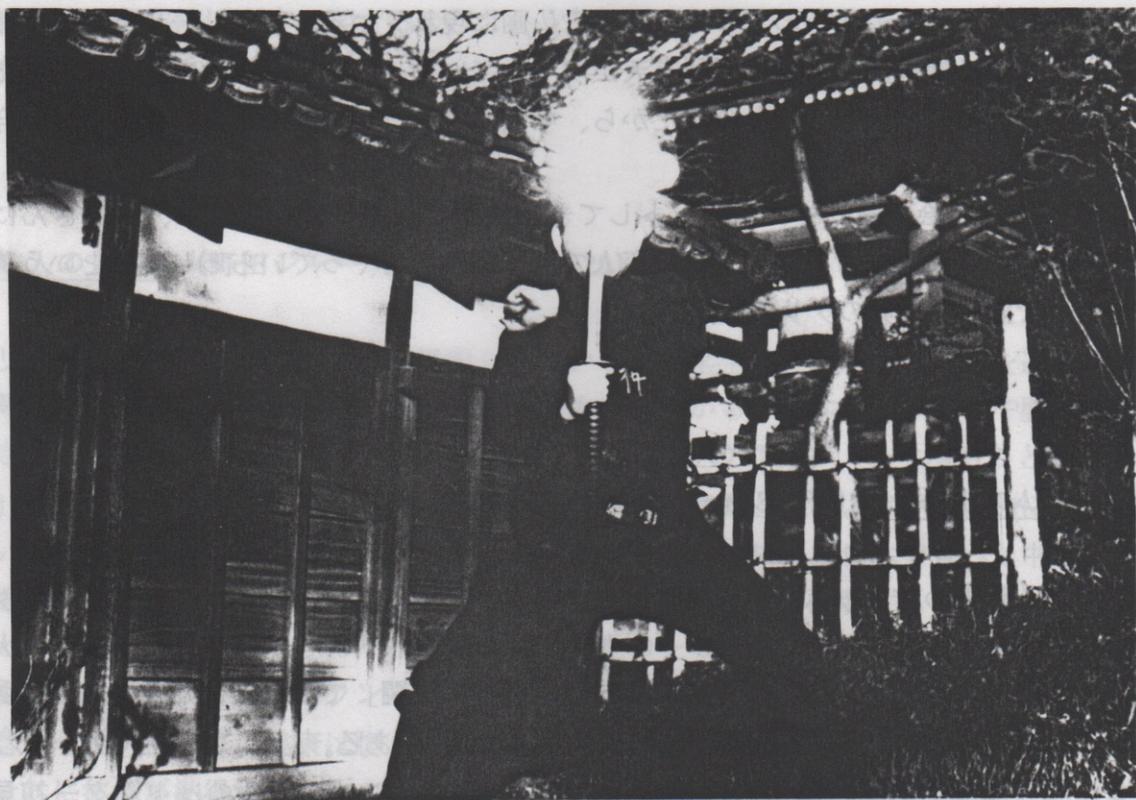
## 7. トゥムストーン (野田ジャーナル、1995-08-19)

砂塵が踊る荒野の町トゥムストーンに銃の名手ワイアットアープ(ヘンリー・フォンダ)がやって来る。医者くずれの賭博師ドクホリディ(ビクター・マーチャア)にチワワ(犬の種類じゃないですよ。リンダ・ダーネルが映画「荒野の決闘」で演じた情婦役の名前である)。このトゥムストーンの町はずれにブーツヒルという墓地がある。

ここに私の墓場もある。墓石にはこう印されている。「ここに眠るのはドクター初見良昭。1995年5月27日、ブーツヒルの銃軍団にリンチされてゆきました。場所はトゥムストーン。やすらかに眠れ!!」。空砲の銃で射ち合う西部劇のショーの後、アメリカン・ジョークでいただいた墓石である。空砲だからといって、銃口をこめかみに当てて引き金を引き、風圧で死んでしまったというアクシデントもあったそうである。銃のことを知らない人は御用心。日本で、お墓を造るということは大変なことですね。月賦で買えば一寸死ねません。中には

墓相にこる人もいますね。墓石は白くて堅い石でないとか、戒名は、院号居士をつけなくて。外人は戒名を不思議がり怪妙と解く。

そうそう墓石の積む順序も三段構え。上段を竿石、中段を女石、下段を布団石というんだよと彼等に説明するとラブホテルの看板みたいだと笑う。世界では色々の形で死者を葬っていますね。乾葬、火葬、風葬、ミイラ葬、湿葬、土葬、水葬.....。二十一世紀には宇宙で空葬なんてことになるでしょうねと語ったところ、天国ってどこにあるのですか？ の問いに答えた。皆さんの心の中にあるんだけどな.....



## 基本八法について



基本八法の体術を修業するとき骨指基本三法、捕手五法、その型を会得することに始まり、その形が八法秘剣、武芸十八般、忍者十八型とコミュニティが出来るものとしなくては、基本八法を会得したとはいえないのである。この基本八法が万法を生み、その万法が無源になったとき武元となり、基本八法の真の味わいが生ずるのである。

骨指三法と捕手五法を合せて基本八法と指針を表したが、骨指三法とは天地人、三心を表し、捕手五法は地水火風空、五業の運行を会得することを本意するも悟行とする。心は仁義禮智信、また貫忠孝自愛（チュウコウジアイツツメク）武道家の心構えを表わすものである。以上の如くして武心の和を生じ、これを貴び、基本八法が天授されるのである。天授されたとき天意に通じる武人となり、奇蹟的奇道に生きられるのである。故に、兵法は奇道ともいうのである。武道体術の基本八法の真理がここにあるのである。

## 骨指基本型三法

### (一 法)

#### 右一文字の構え

(1) 右一文字に構え、右一文字というのは右手前方に出し、左手拳拇指立て右手の肘関節の上に置くかの如き構えなり。

この構え型は玉虎流にして、他の八流にあってはおのずと構えの名も違って来る。また同じ構えの如くであるが虚実の構え型によって違いが生ずる。

(2) 右手右へ廻し腰の方向より左肩に廻す。これ廻すときは必ず拳を変化していること。これは敵の攻撃を砕く意なり。

手の廻し方、手首、肘、肩、背骨、腰、股関節、膝関節、足関節、手指、筋肉、筋腱の動きにより虚実あり。

(3) 左手左へ廻し拳が半開きとなって相手方の右横首筋に打ち込む。左足一歩前進と同時なり。

(2)の如く体の奇妙なる風を生かす。風体の骨指拳を会得するために柔より剛を求め、剛から柔に返り、剛柔の虚実拳を求めおのずから自然拳を見ることにある。拳は剣であり、賢であり、即ち人としての心健(シケン)を養うにあり。

骨指三法、左技のこと。左一文字の構え。



(口伝)

## 骨指基本型三法

(二 法)

(巻 三)

(1) 相手方左手にて片胸捕る。我右手表小手逆捕りに高く上げ右足引く小手廻  
右飛鳥の構え

この際胸捕りの理を口伝す。受、敵右手に対して左腕の掌を十成  
左技のこと。(口伝)

(1) 左足は右足中関節の所に上げ左手半開き前方に右手拳拇指立てて左手肘関  
節の辺りに位捕りのこと。

空間の構えともいえよう。

(2) 左手左下右廻し左腰辺りより右手肩辺りに位捕り変ず。前の通り拳に変  
わっていること。

ここに地上に立つ構えでなく、空間にて相手の攻撃を無理なく自然の位よ  
り避ける。この避けるという音は敵の攻撃を裂く空間に包む自然の策を会  
得することにある。

(3) 左足は敵の水月を蹴込んで前進。

手の振りを利用して蹴りを生かすのである。空間に飛び空間にいる者の蹴り

(4) はと、この蹴る映像を会得することにある。

(4) 右手拳半開きとして相手方右首動脈に打ち込む。右腰辺りより廻り左肩辺  
りに位捕りのこと。

これも(3)よりの自然の気流を行く運行を体全体で会得する。そこに己れ

(5) 拳となれの極秘拳の本体を会得することが出来るのである。

んで右足我が後方に廻し逆投げのこと。

左技のこと。右左同一にして空中を飛行する気体、即ち奇体となることを会得  
すべきである。

以上五伝す。

(口伝)

# 骨指基本型三法

(三法)

(式二)

## 右十文字の構え

大勢の氣張は

(1) 左手内側にして十文字位捕りのこと。  
十の数字を佛教でいう十界、また聖書の十戒、そんな俗世界に存在する生物と無生物、そういう人生の中での構えであり、そういう人生に生きられる位捕りの一所(イッショ)を知ることである。

(2) 右手拳そのまま右上右廻し、右手拇指敵の胸部を突く。右上に手を半開きで右側に上る。

胸を突く、これは相手の胸中を知ることであり、心を知りそれを突くということである。眼は心の窓というならば、眼潰しともなる。ここに遠当不動金縛りを生むのである。

(3) 左手拳、そのまま左上廻し左手拇指敵の右胸部を突く。右側半開きにして上る。このとき右手は拳に変わり胸部十字型に位捕りのこと。  
半開きの風、これ気流なり。十字型邪悪を消し、正義を守る自然のしるしである。邪悪技に虚実ある如く、彼我(ヒガ)の邪悪を自覚し、武風一貫の度胸を護る護心の術という。

左技のこと。

(口伝)

(式口)

## 捕手基本型五法

(1) 相手方左手にて片胸捕る。我右手表小手逆捕りに高く上げ右足引く小手廻し下す。この際胸捕りの理を口伝す。受、敵右手に対して左手そえること。左技のこと。(口伝)

(2) 相手方左手片胸捕り。右手拳打ち来る、我左手拳にて受ける。同時に右手にて敵左小手表逆捕り(1)の如く投げ、ここで大事なことは我左手胸捕りし、手を我が右手そえたものを敵左拳打ち来るを右手を中心に体変す。この練習第一たり。

左技のこと。(軀伝)

(3) 相手方左手片胸捕り。我敵左手裏小手逆に左手にて捕り、左足引き小手逆の手下に一度引き忽ち変化小手上より廻し右足引き右手そって投げ。

左技のこと。(九伝)

勝利数、最高数

(4) 相手方左手我が右手袖口を捕る、右手体と共に右へ引くこと。十分大きく上より巻込み逆腕締めると同時、右足膝関節を蹴り敵を投げ敵仰向けに倒る。

左技のこと。(功伝)

(5) 相手方左手我が右袖を捕る、右手体と共に引き右手内側より敵の左腕巻込んで右足我が後方に廻し逆投げのこと。

左技のこと。(供伝)

神に捧げる

以上五伝す。

# 捕手基本型五法

## (三法)

この捕手基本型は遠く腕力組討の経験から生まれたものである。術というものを知らなかった時代はどうしても弱肉強食的闘争の観があったのででしょう。こんな初歩的な捕手基本型を生むのに何百人何万人もの人類の死の姿があったことと思います。また、術が出来上がりその術を悪用し、また術に溺れ死んだ者も多数あったことを想い、武道家の心を忘れず武風一貫することが幸福の真味を授かるものと確信して下さい。感謝と尊敬の禮を捨てたとき己が邪鬼に一変しているということを自覚することです。

捕る、これは護身的な捕利（トリ）であり、手は術であり心です。昔から芸界では“とりをとる”とって最高の座を表現しています。

平成七年九月九日



初見良昭 寿宗  
記

## 稽古はいつも青春の心で

石塚 哲司

武道体術十段

私と宗家との出会いは東京オリンピックの行われた1964年の春、高校で柔道の試合中右肩を脱臼し治療に伺った時であった。治療中も何度か「この武道をやらないか？」とお誘いを受けたのだったが、大学受験を控えていたので受験の終るのを待って1966年2月に入門させていただいた。17歳だった。入門時の印象は「何と難しい動きをするのだろう！」の一言に尽きた。私は柔道をはじめ剣道や少林寺拳法などを少々かじったが、全く質の違う動きに戸惑ってしまった記憶がある。それはまるで初めて自転車に乗る時のようだった。

当時は門弟も少なく、いつも稽古に来ていたのは大栗、瀬能、小林の3名位で、あとは“入ってはやめ、入ってはやめ”の繰返しだった。稽古はといえば、まず8畳ほどの板張りの道場の荷物を片付け清掃から始まる。突き蹴りはもとより、投げ技、宙返りもよく練習した。ところが下手な者同士がやるものだからしょっちゅう床板をぶち抜いてしまい、稽古は一時停止、早速ノコギリとハンマーを持ち出し全員で床の修理と相成る。床板を根太まではがし板を切り合せて打ちつける。修理が終れば練習再開である。ところが、素人が修理するところへもって板の厚さが違うので床はあちこちデコボコ、よく怪我をしなかったものだ。釘もよく出ていましたのに.....

宗家も当時は30代、我々弟子も10代後半だから練習の荒っぽいこと、特に宗家が高松先生の処から帰って来た次の稽古はそれまでとは全く違ってしまふ。よく「弟子達は実験台だった」と述懐されるがその通りで、実際に鼻の中、口の中へ指を突っ込んで投げ飛ばされたものだ。痛いのは当たり前で、もし「痛い！」などと言おうものなら「生きている証拠だ！」と一喝されてしまふ。イスラエルから来ていたダンさんが帰国する前夜の練習でのこと、宗家が「ダンさん、今夜は国へ帰るオミヤゲネ」と言ってメチャメチャに稽古をつけたものだからたまらない。さすがのダンさんもたまらず「鬼！先生、鬼！！」とうとう悲鳴をあげてしまった。私達は大笑い..... そんな訳で当時は打ち身、内出血が絶えなかった。しかしながら宗家はどんな荒い稽古をつけても弟子に一度も怪我をさせなかった。それは現在も同じだと思うが全てにゆとりがあるのである。よく「怪我をさせるのは下手な証拠だ」と言われるが全くその通りであります。

弟子入りして2年位経った頃だったか、W大空手部のOB、A氏が練習に来た。宗家が「石塚君、稽古をつけてやりなさい。」「ハイ！」と私。A氏は正拳で私の顔面に突っ込む。私は一文字の構えから上段受け「ビシッ！」という音。A氏は「ウッ！」と唸って手を押さえる。A氏から2発目が来ない、「ハテ？」と思っていると彼の二の腕が大きく腫れ上がり手が効かなくなっていた。どうやら2発目どころではなかったらしい。

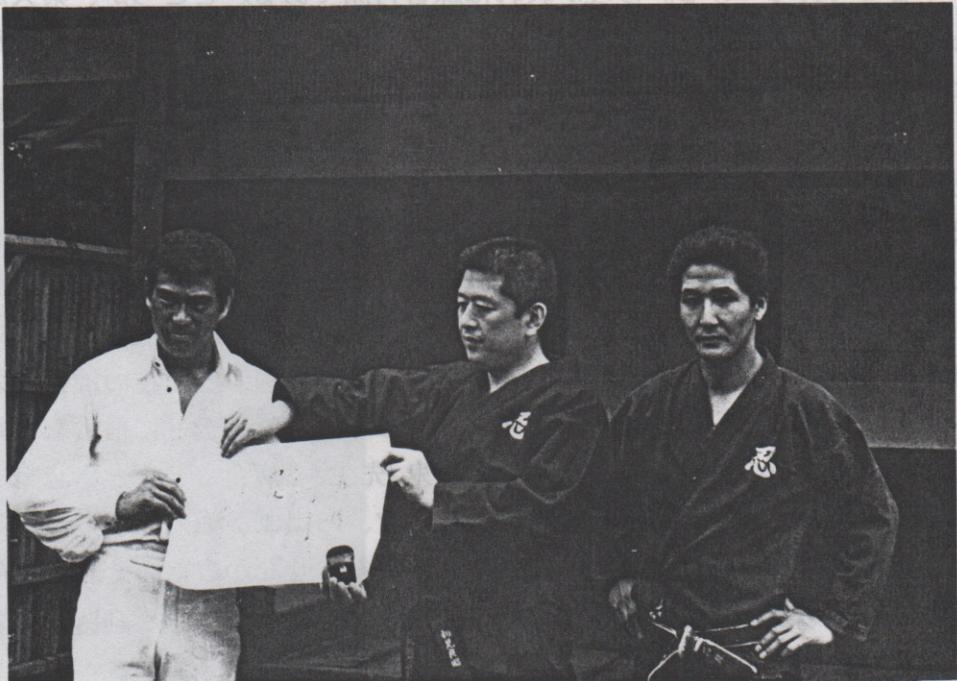
当時の宗家の家には至る所沢山の武器があって、天井からは鉄まりや弓、長物の武器が下がっており、鴨居には槍、薙刀、吹き矢が、キャビネットには手鉤をはじめとする様々な武器が納めてあった。また、トランクには巻物や古い書籍類が沢山あり、虫干しの時などはそれを見る機会とあって楽しいひとときであった。

また、稽古中我々に気合が入っていないと、自身の日本刀を抜いて斬り付ける。一間位飛んだのでは駄目で「三間飛べ」という。私達は無理だと思っているのだが、イザ、宗家が思い切り「ビュッ!」と横薙ぎにされると知らぬ間に三間位飛べてしまう。「ホラ、飛べるじゃないか!」宗家は時として真剣型を身をもって教えてくれた。教え方も実にうまいのである。

それから大事なことをもうひとつ.....

当時からつい最近まで、宗家は月謝を一切とらなかった。最近でこそ維持費として皆さんからいただいているが、自分の職業の収入で充分生活をし、かつ武器類や文献をコツコツと買い集めていたのである。宗家は、人間「金」になるとどうもどこかが狂って来ると語っておられた。「武道で大事なことは？」よく考えてみればそれは「金じゃない、稽古だ」と気が付くだろうと私も思うが、皆さんは如何？

平成7年初夏



東映映画「直撃地獄拳」のアクション指導中の宗家  
左から、俳優千葉真一さん、宗家、?段の頃の石塚哲司師範

東京オリンピックで宗家が語った記事。

<東京スポーツ紙、1964年10月23日（金）>

＝ 忍者が見たアベベの走法 ＝

午後一時。列にすると四列も並んだ一群の選手団が、人間の忍耐と、スピードの可能性を秘めて国立競技場を出発した。白人、黒人とさまざまな人間が、さまざまな衣装をして出て行った。それが私の目には当り前のことながら、ひどく奇麗にうつった。忍者なら、黒い装束に、七つ道具を腰に、スパイクがわりに、草履をはいて走るところである。

もしそんな男がこの一団の中にいたら、とても似つかわしくないなあと思った。マラソンは人間の可能性を見い出そうとしながら他人と争うものであり、忍者は敵の目をのがれながら前進して行く。そこに大きな目的の違いがある。とはいえ、肌の黒いアベベの姿は緑のトレーニングパンツをはいていたのが目立たないほどで、忍者の装束に最も近いものに感じられた。

そのアベベの無表情に走る姿を見て、私は思わずコックリとうなずいた。アベベの走り方と忍者のそれとは、対象はできないものの、根本において、まったく同じだったからである。どこが同じなのか。それには忍者の走り方を知ってもらわねばならない。忍者は、まずからだをななめにし頭を下げて腕を振らずに、指の先で調子をとるようにして走る。からだをななめにするというのは、左右に敵がいなか、また尾行者はいないかと常に細心の注意を怠らないためである。腕を振らずに指先で調子をとるというのは腕を振って走ったのでは疲れるのがはやいし、かといって何かで調子をとらねばならないので、指先でとる。そうすることによって疲労を本能的に防いでいたわけである。

アベベの走り方も、本人は決して指で調子をとっているのではないだろうが、極力腕を振るのをさげ、手先だけを動かしている点に、わたしは忍者にまったく同じものを見出したわけである。そしてアベベのこの走法は、ゴールのテープを切るまでまったく崩れることはなかった。しかし、それにしてもアベベは途中で、何を補給したのだろうか。これはわたしの第二番目に知りたいことだった。

話によればそれは紅茶のような液体だったと聞く。たかが紅茶のようなもので、あれだけの威力を発揮するなどさすがにアベベは強いと思ったが、わたしは密かにもっかはやりの疲労回復剤のアンブルに、まむしのエキスでも入れたら、と思っていた。そんなことをしたら、アベベなどとんでもない記録を出していたかも知れないが、忍者は梅干しのつゆをさらしに浸してなめたり、玄米汁といって、食物油をひいて玄米を炒め、それをされに粥状にしてそれを布巾でしぼる。その汁を竹筒の中へ入れて、疲れたら飲み疲れたら飲みして走ったものである。

が、とにかく理屈抜きで満場七万の観衆が固唾をのんで待ち受ける国立競技場へ、まるでたいした距離も走っていないように、余裕たっぷりに疾駆したアベベの姿は立派だった。テープを切ってもまだ力があつた。聞けば、アベベはローマからこれまでの四年間、海拔二千メートルの、日本と比べ、およそコンディションの悪いエチオピアで、朝から晩まで走つたという。“辛抱一貫” == 人間は、物事に耐えることによって根性を持ち、精神的な力、すなわち心の力を強めていく。

そして辛には神にも、真にも通じる。アベベは四年間、朝から晩まで走る鍛錬によってその力を得、この日の勝利を握った。しかも私がみたところでは、戦わずして勝つたといつたところだった。また悟りの境地を開いているともみうけられた。そんなアベベを、マラソン界の仙人と呼んでも決して過言ではないだろう。



## 遠当て不動金縛りの術を体験して

染谷賢一

忍龍

武道体術九段

あれは何年前のことだったのだろうか？ 今年の夏のように暑い夜のことでした。私と白石さんが宗家に呼ばれて道場へ行きました。少し待ち時間があったので宗家が稽古をつけて下さることになり、短刀を右腰に固定し体当たりで突いて来る敵に対して捌きと手刀打ちの稽古を数分行ないました。次の技ということで私が呼ばれ、「今の構えから思い切り突いて来い」と言われました。私は一瞬、「突きの勢いで思い切り投げ飛ばされるのでは？」と次の受身のことを頭の中で想定しました。この頃の私は歳も30歳位で体も十分動き元気一杯の頃で、多少の受身は問題無いと思いがっていた頃でした。私は短刀を右腰にしっかり固定し、十分腰を落とし左半身に構え、全力で突きに出ました。私の左足が一寸出た瞬間、宗家の体が数センチ沈んだのか？ 不動妙王のような構えから烈火の気合が発せられ道場中に響き渡り、また共鳴した大きな山彦のようでした、と同時に私の右足『時』に棒手裏剣のような鋭く重いものが突き刺さった衝撃を感じ、体が金縛りにあったように動かなくなりました。そして、頭からサーッと血が引いて行くのを感じました。「大丈夫か？ 今のが遠当ての術だよ。今は足に掛けたけど、もし目に掛けたら目が潰れただろう」と宗家に言われました。私の想定とは違い、また、あまりにすごい衝撃を味わい、暫く声も出ませんでした。小説や映画の世界のことではない幻術（現実）を体験しました。このような素晴らしい術に対し、どうしても質問がしたくなる。まだまだそのレベルに達していない自分ではあるが、恥ずかしいことである。稽古中、宗家の妙技を見せられて、「えっ、今のどういう風にやるの？」と心の中で質問している。宗家は、我々が出来ないと手取り足取り指導して下さる。これは小さな『山彦』ではないだろうか？ 自分が分からなくなったり、壁に突き当たったりすると体も動かなくなる。声に出して質問も出来ない。宗家がいつも言われる通り、ただひたすら稽古をするのみである。その中に師弟関係のつながりで『山彦』となり答えを出してくれるという。

私は去年の怪我のため入院を繰り返して、思い通りの稽古が出来ない。退院しても安静の時に見学してでもリズムをキープしているつもりである。また10月になったら病院のベッドで今までの稽古を思い出して一人稽古をしていると思う。

## 心の空虚

エンツォ・ロッシ

1995年3月9日。何ヶ月もの心配と期待の末、やっとミラノを出発。自分と四人のイタリアの武友(ファビオ C.、マックス D.、ファビオ R.、マッシモ G.)は宗家の教えを直接に頂くために、野田に向かった。

移動中も日本に早く着きたいという興奮と幸福感が漲った。飛行機はロンドン経由だったので、そこでペドロ・フレイタスさん、インドロさん、ペドロ・マルチンさんとその弟子達とも会えた。ミラノを出てから2時間も経っていないが、すでに楽しくなった。再会は暖かくて、喜びに満ちていたが、コーヒーを一杯飲んでから別れを告げ、意外と「成田でまた会おう」ということになった。スペインの友達とロンドンでも会え、日本でもまた会えるというのは武神館の武友によく起こる楽しい出来事である。実は色々な国の友達と色々な空港で会うことはよくある。皆同じ目的に向かっている・・・それは大会であれ、今回のように日本であれ。

3月10日。成田空港には午前8時50分(現地時間)に到着する。野田まで皆で行けるように、ペドロ・フレイタスさんと他の友人達の飛行機を待つ。野田に着いたら、私とペドロさんは真っ先に宗家に挨拶をしに行った。この再会もわくわくする。宗家は両手を広げて気前よく私達を自分のスタジオに歓迎してくださる。宗家と話していると時間は早く過ぎ、その日東京武道館で稽古があると聞く。宗家と奥様と一緒に行く。

素晴らしい稽古である。35時間の旅の後でも疲れを感じないで、幸福に満ちた心で稽古ができるということに自分でも驚く。日本にいる間の稽古はやはりどれも素晴らしかった。宗家は我々の体のみならず、心にも教えを注ぎ込んでくださるようであった。彼が我々に提供してくれた技とフィーリングは人間としての感性を充実させる宝だと思う。とても役に立つ。技そのものが分かるようになるからではなく、それより遥かに広いものである。我々に充実した人生を与え、人生を本当に味わってそれを完全に楽しむための堅忍不拔・意志・忍耐力のある他の人々とも、自分とも、調和した生き方を示してくれるのである。

この魔法の日々に私達は皆「心の空虚」を感じた。考えが透きとおっていて、日常の根拠のない問題に汚染されることもなかった。この「空虚」はとても重要だと思う。それにより感性が出て、認識の重いドアを開いてくれるからである。これは心を開くことの基礎だと思う。この「空虚」のものは、宗家がいるだけで、幸い近くにいる幸福な人達へ送られる大きなエネルギーだと思う。このエネルギーは余りにも強いので、それに満ちた人は豊かになる。

その日々には何度も宗家が近くにいる魔法を認識した。自分の中にあった多くの疑いや闘いは雪のように宗家の暖かさと光で溶けてしまったのである。私が感じた様々なことをすべて表現するのは難しい。いや不可能かもしれない。心の笑いは目にのみ光と色で描かれる。これと同様に、感情は心の振動でのみ書くことができる。

それでも、自分が参加した最後の稽古で感じたことを説明したいと思う。素晴らしい稽古の中で、これこそ特別だった。宗家の教えは深く、エネルギーとフィーリングは強くて、それが道場の中の空気をよぎるのを感じることができた。それよりも、宗家が私達に教えを伝えているとき、日本語が分からなくても彼の言うことを完璧に理解することができたことをその通訳を聞いた時にはじめて分かった。これを解明しようとは思わない。それに、これを解明できる理屈は持っていないのである。ただただ、自分が経験した魔法的な体験を深謝したいのである。



ロッシご夫妻

赤ちゃんお誕生おめでとう!!

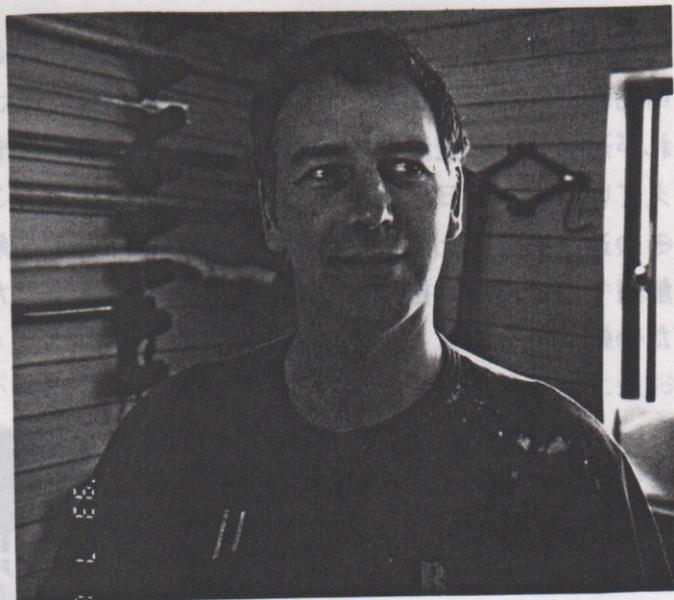


## クリスさん、デニスさん、 ウィリアムさんからの便り

武神館道場宗家 初見良昭先生  
前略

今年3月の日本訪問は本当に楽しかったです。どうもありがとうございました。

私が日本の武神館道場を初めて訪ねてからはや10年立ちました。毎年、高級のお酒の味も舌触りも成熟してくると同様に、宗家もますますよくなっていきます。(私はお酒が好きですから、宗家に酔うのも大変楽しいです!)



クリス・ロウース君、十段

日本に行く度に、あなたは代々の宗家しか達成できないより深い智慧や理解力を分けてくださいます。今になって、「無構造」の重要性が初めて分かってきたような気がします。組織は段々と構造化してゆき、それだけでも自分を制限してしまうはめになります。武神館道場はなぜ強いかというと、皆が強制されることもなく自分で進んで集まってくるからです。宗家のおっしゃることを常に自分の弟子達や同じ道を進んでいる人達に解き続けています。本当の稽古ができ、本当のフィーリングをつかむことができるのは日本だけなので、行きなさいと、繰返し勧めています。多くの「高段者」が前ほど宗家との稽古を大事に思っていないということは悲しいことですが、人生のどの道にも同じことがあります。先生は先生となるように一所懸命努力した後、自分で学ぶことを忘れるか捨てるかして、他人に「よく学びなさい」と言うようになってしまうのですね。これは宗家がおっしゃる通り良くないことです。悪の中にも必ず良ありと言うか、その例を見る私達はもっと真面目に稽古し、同じ間違いを起こさないようにという意志が余計に強くなるかもしれません。

私の10段の免状を見ると、10は1と0とからなることに気がつきます。もしかしたら、これは「ゼロから一步だけ離れている」という意味なのではないでしょうか？ 10は漢字で「十」という、悪を遠ざける印(しるし)となっていますので、悪い心を起こすなという警告なのかもしれませんね。このように遊んでいると、宗家がおっしゃったことを思い出します。「子供の心は何の制限もなく、成長しはじめる頃は素晴らしいものです」。10段も私達が人間らしい人に成長し始めなければならないレベルなのかもしれません。または、(その本人によって)「一

枚の紙はゼロに等しい」という解釈もできますね。どちらでも構いません。一番大切なのはやはり「キープ・ゴーイング」することですね。

私が初めて日本に行ったときのことを覚えていらっしゃるでしょうか？ 石塚道場で稽古をしているとき、私の背中が動かなくなりました。宗家は数分で私の痛みと運動不能を取り除いてくださいました。その後、イギリスに帰ってから私は自然治療法を勉強し始めたのです。妙なことに(あるいはそうでもないかもしれませんが)、その時ウィリアム・ドゥーランさんもデーヴ・エヴァンスさんもブライアン・マッカーシさんと一緒に日本に来ていました。ご存じの通り、ウィリアム・ドゥーランさんは今年日本に行ったグループの中にも入っていました。またご存じの通り、デニス・バートラムさんやウィリアム・ドゥーランさん、私は三人とも英国で認められる整骨療法・物理療法・自然医学の資格を持つようになりました。住んでいるところは夫々かなり離れていますが、武神館道場を通しとてもいい友達になりました。宗家のご指導や開かれた心により、私達は治療法の中に体術の原理を取り入れるようになりました。これはもちろん英国のほかの自然治療家達の興味をも引きました。

近年はイギリス、アイルランド、ポルトガルの整骨療法家や物理療法家、脊柱指圧治療者その他の自然療法家にこのアプローチを伝えてきました。なにより、この間日本に行ったとき、宗家が長い時間を掛けて、ほとんど毎日ヒチブコゴシンジツリュウの奥義を私達に分けてくださって、ガイロンの思想や生命・幸福・健康に対する考え方を説明して下さったこと、どうもありがとうございました。武道や医学、詩、美術、どれも同じことであるということはいくぶん分かりました。本当に新しいものはなく、再設計されるだけです。宗家のご説明の通り、稲妻が木を打ち倒し、人間が摩擦で火を起こすことを覚えましたが、ずっと後で誰かがライターを「発明」したときは何か新しいものを見つけたような気になります。宗家が写させて下さったビデオはいつまでも大切にします。そしてご示唆の通り、私達の会話や経験を他の自然療法家にも分けてあげました。イギリスで自然医学を取り締まる機関(補足医学研究所)は我々のアプローチや治療方式をととても喜んでいて、我々のヒチブコゴシンジツリュウの師範免許を自然治療方式として認めました。私達が今より大きな視野、両神経系のバランスを取ることや体全体のバランスを取ることについて話すと、まるで何千キロも離れたところにいらっしゃる宗家が私達を通して話しているようです。このようなアプローチは本当に人類全体のためのものであり、皆がより幸福でより健康になるための手助けです。今後代々にわたって武神館は心のいい人々という評判になるでしょう。

補足医学研究所ではこの治療アプローチを「初見良昭宗家に依る、ヒチブコゴシンジツリュウの天津」として登録しました。このような説明が付いています:「天津はヒチブコゴシンジツリュウという、三千年も遡る医学・護身術の流派に依る医学の自然的アプローチである。当流派の宗家は武神館道場という名でまとめているこの流派やほかに九つの伝統を継承している初見良昭博士である。医学のアプローチは自然のやり方でバランスを取り戻し、保全することであり、具体的には両神経系や筋骨格系、脳仙髄系、エネルギー・ツボ系、器官系のバランスを整える。これは体位調整、体術という統合した運動、体操、接触、マッサージ、

ツボの刺激、その他の自然なやり方により実現している。」

ところで、宗家の「馬糞でも、効けば使うがいい」という言葉を聞いたら、皆大声で笑っていました!

私達が日本に行ったとき、宗家は「今春だから、何かの新しい始まりだ」とおっしゃって、今後三年間ガイロンを皆に分けてくださるとおっしゃっていましたが、自然医学の春とも言えるでしょう。

私達は1996年の3月か4月にまた日本に行こうと思っています。他の自然治療家に宗家の概念や哲学、やり方を分けてあげてからはその多くが宗家にお会いし、一緒に研究したいと申し出ています。宗家は各国の法律や考え方を配慮し、海外で天津・ヒチブコゴシンジツリュウのセミナーを行うことは不適切だとお考えになっていることは承知しています。今天津の教えを勉強している人が五十人以上いて、その半分以上が武神館道場の門人です。その中の二十人が日本まで行き宗家と一緒に勉強したいという強い意思を示しています。といわけで、1996年の3月か4月に日本でヒチブコゴシンジツリュウの教えについての指導かセミナーなどを企画することはできませんでしょうか? 宗家もご多忙のことと思いますが、これは皆心の良い、専心した真心のある人達ばかりですので、宗家に一番良い日付を教えていただけたらそれに合うように手配します。

世界各国にこのようなセミナーに参加したいという、同じ考えの人がほかにもいるかもしれません。そのうち、医者達も皆参加したくなるかもしれませんね!

もう長い手紙になってしまいましたが、今回の日本訪問の際も、今までの何年も、宗家が私達に分けてくださった時間、気遣い、心配り、莫大な知識、すべてをどうもありがとうございました。いつまでも感謝の気持ちを忘れずにいます。英国大会を楽しみにしています。

宗家と奥様からのたくさんの贈り物、そして免状などをどうもありがとうございました。

よろしく願いいたします。



草々  
クリス・ロワース  
デニス・パートラム  
ウィリアム・ドウーラン

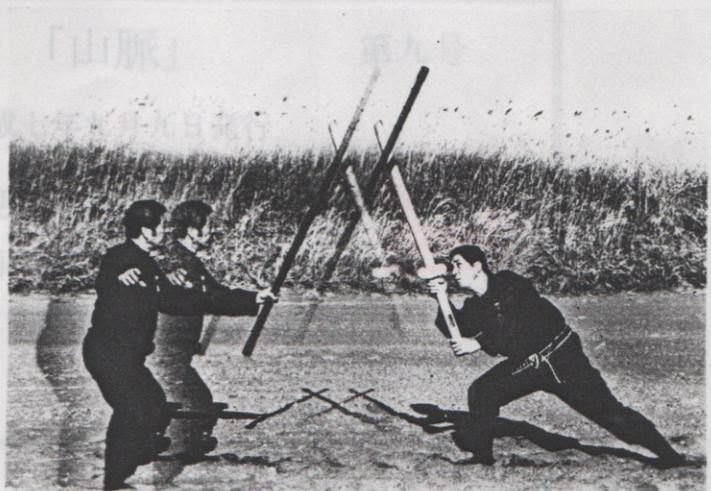
## 山彦

天津タタラ秘文の真理的療法や秘致武久護身術という人体と自然界の真理を利用して病む者を治療するという自然医学といってもよいのでしょうか、それらが武神館には古くから伝承されて参りました。現在医学の先端を行く名医、中山恒明先生は自分の教え子の博士に次のようなことをおっしゃったそうです。患者さんの癌を手術し治したその姿を見ればお医者さんだったら誰でも喜ぶものです。そして俺がこの患者さんを治したのだというのが当たり前ですが、そんな時、中山先生は「君が癌患者を治したと思うのではない、患者さん自身の努力が癌を治したのだと思いなさい」と諭されるそうです。高松先生も「患者自身の自然力、精神力で治すようにもって行くのが大事やで」とおっしゃられました。誰もが現代医学は進歩していると思っております。しかし、戦争や天災とは限らずお医者さんが存在しない時、またお医者さんがいても薬や医療設備を失った場合、医学も共に現代医療のシステムでは消え去ってしまいます。こんなサバイバルを経験した古代人や武士は、天津タタラ秘文に書き残された自然的、真理的療法や秘致武久護身術の序文にある「医薬や器具を一切使用せず、術者の精神転化と共に全身を随意随所に活動せしめ、原素を普及せしめ、各種の病原を除去し、速やかに快癒せせむる勝れたる技法である」というような方法を会得したものである。もう三十年も前になるのでしょうか、高松先生との談話中、先生は放射能について次のように語られました。「放射能は骨を痛めるといわれてますな。これを消すには酢がよろしまっしゃろ。酢で放射能が消えよるようですね。忍者がよく使う <常の水> 梅酢と布でたいたものがありますな。わてはな、白梅酢で放射能はよう消えるのではないかと思います」と.....

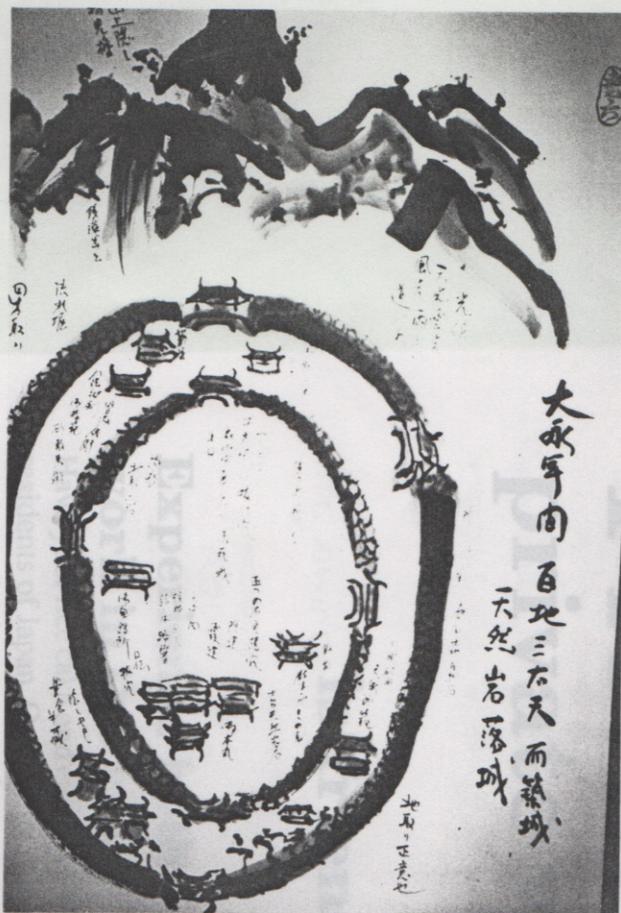
〒278 千葉県野田市野田636 TEL: 0471 (22) 2020

本部道場事務局

林 靖之  
長 岩田喜雄



発行者 初見  
発行所 武神  
千葉



大永年向  
百地三右天而築城  
天然岩濠城

編 集 部

〒278 千葉県野田市野田636 TEL: 0471 (22) 2020

武神館本部道場事務局

相 談 役      林    靖 之  
編 集 長      岩 田 喜 雄

武神館伝書

「山脈」

第九号

平成七年九月九日発行

発 行 者      初 見    良 昭

発 行 所      武 神 館 道 場



千葉県野田市野田636 〒278

TEL 0471(22)2020

FAX 0471(23)6227

\* 許可なくして複製・転載を禁ず

# Private Room with private western-style bath.

**Guest House Hanata is friendly, inexpensive, clean, and convenient.**

**Experience both sides of Japan: work in the city, live in the country.**

Have your rice cake and eat it too. We've designed our guest house to cater to the needs of foreign visitors and residents of Japan. Our guests come from every continent, comprising English teachers, Japanese language students, business executives, and tourists. *Guest House Hanata is located in suburban Koshigaya, about 35 min. from central Tokyo, and only 5-10 min. from shopping, banking, post office, and a variety of dining spots.*

**Guest House Hanata has fully-equipped accommodations to streamline your budget and maximize your life.**

Our guests have their choice of private or shared rooms: each is equipped with a private western-style 'unit bath', air-con/heater, and international phone. Guest privileges include free shuttle bus service to and from Koshigaya and Minami or Shin Koshigaya stations, and use of restaurant, laundry, community room facilities, and fax service. *The community room features cable and satellite TV, and VCR.*



## Room Rates

### Extended-Stay Guests

Monthly:

Single Occupancy: ¥48,000

Double Occupancy: ¥60,000

### Short-term Guests

Daily:

Single Occupancy: ¥4,000

Double Occupancy: ¥6,000

Weekly:

Single Occupancy: ¥25,000

Double Occupancy: ¥35,000

Plus 3% Tax

# Guest House Hanata

4-12-7 Hanata, Koshigaya, Saitama, 343 Japan

Tel: 81(0)489-66-9533

Fax: 81(0)489-63-5864, 81(0)489-66-9510

(030) 545 0604 (MOBILE)

**For reservations and information please contact Chieko Furusawa, Manager.**

# Guest House Hanata

4-12-7 Hanata, Koshigaya, Saitama, 343 Japan

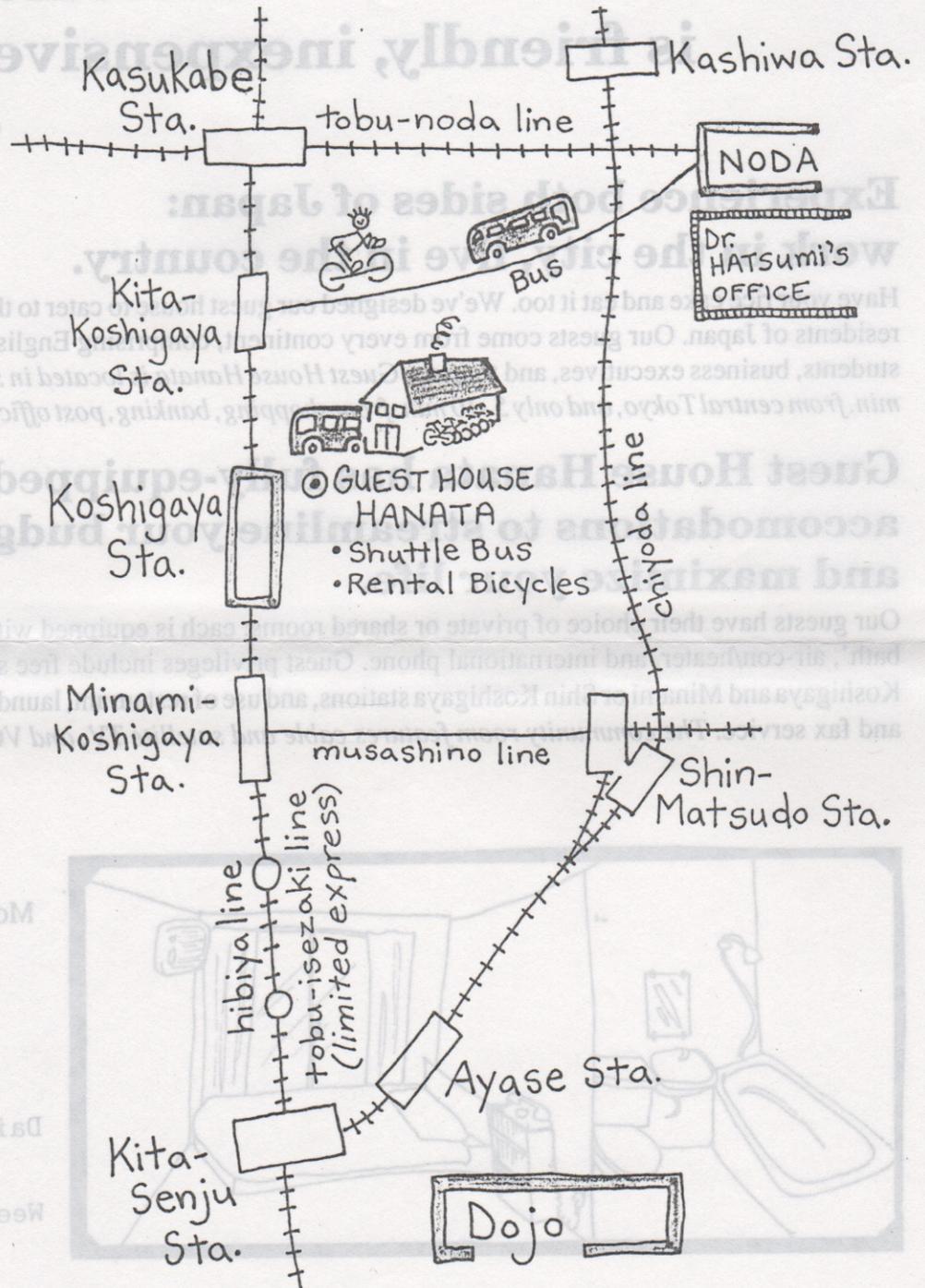
Tel:

, 81(0)489-66-9533

Fax: 81(0)489-63-5864, 81(0)489-66-9510

(030) 545 0604 (MOBILE)

For reservations and information please contact Chieko Furusawa, Manager.



- ◎ Just a 20 min. bike ride from the Guest House to Noda Dojo, or catch the bus from Kita-Koshigaya Sta.
- ◎ Only about 20 min. by train from Koshigaya Sta. to Ayase Dojo.

## Room Rates

### Extended-stay Guests

Monthly:  
 Single Occupancy: ¥48,000  
 Double Occupancy: ¥60,000

### Short-term Guests

Daily:  
 Single Occupancy: ¥4,000  
 Double Occupancy: ¥6,000

Weekly:  
 Single Occupancy: ¥25,000  
 Double Occupancy: ¥35,000  
 Plus 3% Tax

